

第29回くまもと環境賞 表彰

「くまもと環境賞」について

より豊かな環境の保全・創造に関する活動に顕著な功績があった方々を讃え、活動の一層の発展を図るとともに、その意識や活動をより多くの県民の方に知っていただき、ひいては県民総ぐるみで環境の保全・創造に取り組むことを目的とし、平成3年度に創設しました。「くまもとストップ温暖化賞」、「くまもと循環型社会賞」、「くまもと自然共生賞」、「くまもと水の国賞」、「くまもと環境教育賞」の5部門で表彰を行います。

「くまもと環境賞 奨励賞」について

部門賞に選ばれなかったものの、特に活動に「独自性」があり、かつ、顕著な功績が認められ、今後の活動に大いに「発展性」が見込まれる方々を「奨励賞」として表彰します。

「くまもと環境賞 永年活動表彰」について

くまもと環境賞を受賞した後も、引き続き10年以上、環境の保全・創造に関する活動を続けてこられた方々を表彰します。

くまもと環境賞 部門賞

☆くまもとストップ温暖化賞

富士フィルム九州株式会社

☆くまもと循環型社会賞

メルシャン株式会社 八代工場

☆くまもと自然共生賞

熊本県立天草拓心高等学校 科学部

☆くまもと環境教育賞

次世代のためにがんばろ会



©2010 熊本県くまモン

くまもと環境賞 奨励賞

美里町やすらぎ交流体験施設 元気の森かじか

くまもと環境賞 永年活動表彰

水俣市立水俣病資料館 語り部の会

新産住拓株式会社

熊本野生生物研究会

乙益 正隆

自然観察指導員熊本県連絡会

今村 正

次世代のためにがんばろ会

(敬称略)

第29回 くまもと環境賞 受賞者

くまもとストップ温暖化賞

富士フィルム九州株式会社 (菊陽町)

高効率ガスタービン発電機の導入と生産計画の調整で、エネルギー生成にかかるCO₂発生量を最小化している。また、生産条件の見直しによる使用エネルギー削減に取り組むとともに、設備を一斉点検し無駄なエネルギーの発生源をなくすなど、社員一丸となった省エネ活動を推進している。直近のCO₂排出量は対2013年度比で24%減少しており、その削減効果は非常に大きく先進的な取組みである



くまもと循環型社会賞

メルシャン株式会社 八代工場 (八代市)

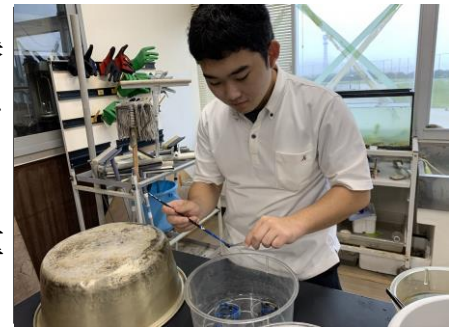
焼酎製造時に発生する焼酎粕を県内の養豚場へ提供している。焼却処理をしていた焼酎粕を地元養豚農家と連携し家畜飼料化することで、CO₂排出の低減、養豚農家の飼料コストの低減につながっている。企業や大学との共同研究により、焼酎粕の肉質改善効果について検証を進め、循環型社会形成に大きく貢献している。



くまもと自然共生賞

熊本県立天草拓心高等学校 科学部 (苓北町)

県内において、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている海産巻貝カヤノミカニモリについて、産卵時期や幼生から成貝になる過程、幼生の飼育法などを研究し、その保全を目的に活動している。研究事例の少ないカヤノミカニモリについて、保全のための活動や地域住民への啓発等を重ねており、本種の貴重さを地域内外に浸透させている。



くまもと環境教育賞 並びに 永年活動表彰

次世代のためにがんばろ会 (八代市)

市民が高い環境意識を持って行動していくことが自然環境を良好な状態で次世代に残すために重要だと考え、青少年育成を重視し、資源循環型社会を目指したごみ問題の出前授業、リユース食器の無料貸し出し、生ごみ処理箱の普及など、活動の幅を広げながら充実・発展させている。



第29回 くまもと環境賞 受賞者

奨励賞

美里町やすらぎ交流体験施設 元気の森かじか (美里町)

県内の幅広い世代を対象に、年間を通して利用者のニーズに合った様々な自然体験型・環境教育プログラムを提供している。活動の拠点である美里町払川地区の森林率は70%近く、森林環境をテーマとした活動を多く展開している。また、地域性や専門性の高いプログラムを構築し、利用者の環境への意識を向上させている。



永年活動表彰

水俣市立水俣病資料館 語り部の会 (水俣市)

平成20年度(2008年度)第17回くまもと環境賞を受賞後も、11年以上活動を継続している。

水俣市立水俣病資料館が実施している語り部制度において、現在11名の語り部会員で講話活動を継続中である。年間で約26,000人に対して講話を行い、水俣病の正しい理解や教訓の発信に貢献している。



永年活動表彰

新産住拓株式会社 (熊本市)

平成17年度(2005年度)第14回くまもと環境賞受賞後も、一貫して地産地消、熊本の木を使った人と環境による住まいづくりを実践している。住まいづくりを通して森林の大切さを広く公開。平成19年(2007年)から発売している、水と土壌を守り温暖化防止に役立つSGEC(森林認証)の住まいは、国連のSDGs(持続可能な開発目標)に共通している。



永年活動表彰

熊本野生生物研究会 (熊本市)

平成17年度(2005年度)第14回くまもと環境賞を受賞後も、14年以上活動を継続している。

哺乳類を中心とした野生生物の調査研究や環境教育に35年間取り組み、その成果は会誌や本の出版などを通して情報提供している。絶滅危惧種や特定外来生物の生息状況を把握してその対策に講じるとともに、行政への提言も行っている。



第29回 くまもと環境賞 受賞者

永年活動表彰

乙益 正隆 (人吉市)

平成6年度(1994年度)第3回くまもと環境賞を受賞後も、25年以上活動を継続している。

シダ植物の新種や新雑種の発見、著書も多数出版しており、環境省希少野生動植物保存推進員、国土交通省九州地方整備局自然環境アドバイザー、熊本県環境センター植物指導員など、多岐にわたり活動している。



永年活動表彰

自然観察指導員熊本県連絡会 (熊本市)

平成7年度(1995年度)第4回くまもと環境賞を受賞後も、24年以上活動を継続している。

昭和57年(1982年)の会の立ち上げから38年間、県内全域で、自然観察を通して自然に親しみ、そのしくみを理解しながら自然保護の大切さを広めることを目的に、自然観察会、学習会、講演会、調査活動、自然観察指導員養成講習会、会報発行等の事業を実施している。



永年活動表彰

今村 正 (玉名市)

平成20年度(2008年度)第17回くまもと環境賞を受賞後も、11年以上活動を継続している。

昭和63年(1988年)に岱明町ホテルを育てる会を結成し岱明町ホテルの里の創設に携わる。平成27年(2015年)に県内のホテルの里45カ所を調査。現在はホテルの里保全隊(4人)として、地域住民や子供会と協力して、ホテルで町の宝づくりに取り組んでいる。

